

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401632
法人名	有限会社 グループホームこすもす
事業所名	グループホーム こすもす
所在地	〒859-2113 長崎県南島原市布津町丙782番地1 (電話)0957-72-7136

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月13日	評価確定日	平成21年1月6日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年	6月	1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	8人	
職員数	7人	常勤	5人	非常勤 2人, 常勤換算 3.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0円	その他の経費(月額)	おむつ・理美容代実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 600円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	8名	男性	3名	女性	5名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.62歳	最低	74歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田医院・上田歯科医院
---------	-------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者の自宅を改修してホームにしており、家庭的な雰囲気である。周辺は畑が多く、静かで季節の移り変わりを作物や木々から感じる事が出来る。運営者は入居者の家族の事を常に考え、野菜は自給自足を取り入れ、利用料の設定を安くすることで、負担の軽減を図っている。入居者の生活や環境に配慮して、エアマットやデロンギオイルヒーターをホームで購入し、無償で提供している。外を散歩している人・ホームでカラオケに興じている人・居室で読書をする人等、それぞれの生活があり、「自由」を楽しみ、職員と会話をしながら穏やかに生活する姿を見る事が出来、今後の運営方法に期待が持てるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価をホームの質の向上の一端と捉え、改善計画シートを作成し、前回の改善点(理念の文言に地域性を取り入れる・運営推進会議で外部評価について報告し話し合う・介護計画に沿った日々の記録を青色で記録する・市町村の窓口に向く・地域と交流・家族の意見の聴取等)を積極的に取り組み運営に反映している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は昨年より話し合いを実施して取り組み、実践している事を記入している。職員は自己評価を実施する事で、実際のケアを振り返り、評価項目を参考にしている事があり、有意義に活用している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。家族・民生委員の参加は確実にあり、参加者からはホームの状況が理解できると成果が上がっているが、市町村の代表の欠席が多く、市町村の参加状況に対する不満の声があり、ホームとしては苦慮している。今後、議事内容や質問事項(次回開催時に回答を頂く)を記入し送付予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置し、傾聴の姿勢を表している。又、家族の来訪時に声掛けを行いお話を聞いている。運営推進会議の家族代表は回り番で順番に参加していることから、ホームの状況を理解し、時には意見を聞く事がある。意見に対しては職員間で話し合い運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者は自由に散歩をして、ホーム周辺の畑で仕事をしている人と会話を楽しんでいる。管理者の友人がボランティアで日曜日におやつ作りに来られたり、野菜を頂いたお礼におすそ分けをする事がある。又、運営者とその家族が長年住み慣れた地域であり、自然な交流が行われている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念「みんなで いっしょに たのしく」に、今年度は以前から実施していた事「地域住民との交流の下で」の文言を追加して理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者のその人なりを重視し、常に会話をし、全員で考えて枠にとられない自由な時間を過ごして頂くように、理念を基に日々のケアで実践するように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者は自由に散歩をしてホーム周辺の畑で仕事をしている人と会話を楽しんでいる。また、管理者の友人がボランティアで日曜日におやつ作りに来られたり、野菜を頂いたお礼におすそ分けする事がある。又、運営者とその家族が長年住み慣れた地域であり、自然な交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は昨年からの話し合いを実施して取り組んできた。職員は自己評価を実施する事で、実際のケアを振り返り、評価項目を参考にしている事があり、有意義に活用している。又、改善計画シートを作成し、前回の改善点(理念の文言等)を積極的に取り組み、運営に反映している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。家族・民生委員の参加は確実にあり、参加者からは、ホームの状況が理解できると、成果が上がっているが、市町村の代表の欠席が多く、市町村の参加状況に対する不満の声があり、ホームとしては苦慮している。今後、議事内容や質問事項(次回開催時に回答を頂く)を記入し送付予定である。		

グループホーム こすもす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村には必要に応じて窓口に行く事があり、事業所の考えや実情を伝えている。又、地域包括支援センターの担当者が関連施設のディサービスに来所時はホームにも来られ、顔馴染みである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子・行事・福祉情報を載せたホーム便りを作成し、利用料の請求書と一緒に送付している。又、病院受診後には状況を家族に電話で報告している。金銭は立替払いで、ホームでは預かっていない。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、傾聴の姿勢を表している。又、家族の来訪時に声掛けをしてお話を聞いている。運営推進会議の家族代表は回り番で順番に参加していることから、ホームの状況を理解してもらい、時には意見をいただく事がある。意見に対しては職員間で話し合い運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	関連法人内の異動はあまりなく、固定化している。離職が生じた時は、便りや家族の来訪時に報告し、ケアの変化ない統一した支援を実施する事で、入居者はダメージを感じる事は無い。又、職員の悩みやストレス把握に努め、働きやすい職場を目指している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画により職員は出来るだけ研修に参加しており、救命講習には全員参加している。受講後は報告書を作成している。又、毎月職員会議とケア担当者会議を行い、ケアの統一に努めているが、会議録の記入や研修受講書類の整理が不十分である。		毎月職員が参加して実施している会議は、重要な伝達事項や研修受講後の報告(職員間での共有に繋がる)等、内容を会議録(日時・参加者・項目を含む)として記述することが望まれる。又、研修受講記録は書式(日時・参加者・受講項目・職員閲覧記録)を表紙にして資料を添付するなど、誰が見ても分かり易い整理を期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎県のグループホーム協議会に加入しており参加は約年1回程度である。計画作成担当者が個人的に知り合いが多く、話をしたり、時には他ホームを訪問する事はあるが、ホーム全体での交流やネットワーク作りまでには至っていない。		現時点では他ホームと交流にまで至っていない。今後は、一部の職員のみでの交流に留まることなく、互いのホームの良い点を教えたり教わったりする相互関係によるネットワーク作りにより、益々の質の向上が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者は病院入院中であつたり、自宅や他のホームに入居中の問い合わせが多く、ホームの見学や状況をお話ししたり、時には悩みを聞く事もある。入居後は自宅訪問をする事もあり、家族と連携を取りながら、馴染んで頂いている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者は明るく、元気を頂く事がある。人生の先輩であり、料理・干し柿の作り方・昔の歌等を教わり、入居者第一の運営者の方針により、尊敬の念を持ちながら楽しい生活を共に過ごしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日勤の職員は殆ど同じメンバーであり、常に情報の交換を行い、入居者の状況の伝達に努め共有を図っている。毎日介護計画実施記録に変化を青色で記入し、個別の把握に努めケアに反映している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が全員参加してケアの担当国会議を開催し、それぞれの気付き・意見を出し、介護計画実施記録(ケアプランに沿って記入)を基に介護計画を作成する事で共有を図っている。介護計画作成後は入居者本人と家族から同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>ケアチェック表の中で実際に必要な項目を抜粋し、アセスメントシートを独自に作成している。出来なくなっている事・出来ている事の両面を加味して、サービス内容を詳細に3ヶ月毎にモニタリングを実施し、季節や入居者の状態の変化に伴い見直しをし、計画の変更を行っている。</p>		

グループホーム こすもす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者とその家族を一番に考え、居室・光熱費を無償で提供している。又、食材費も格安である。医療機関からの往診や受診も支援している。エアマットの提供等状態を把握した柔軟な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から毎月往診を取り入れ、必要時には胸写や採血もホームで受けている。又、必要に応じて専門医の受診支援を実施し、適切な医療受診により、安心した生活へと繋げている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに一度終末期の支援を行い、帰宅後1~2日後終末を迎えられた経験がある。入居者の状況の変化に伴い、ホームでできる最大の支援を伝え、その都度話し合いを設け、双方が協力して最善の方向を見極めながら支援していく方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの職員が入居者の尊厳に配慮して、失禁時はカーテンを閉め見えないようにしたり、さりげなく誘導をしている。職員の優しさが、対応する姿から理解でき、プライバシーへの配慮が窺える。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム周辺の畑を散歩する人やカラオケに興じる人等、入居者の姿から自由な生活を感じる事が出来、職員は入居者のしたいことを把握して、希望に沿った支援を実践している。		

グループホーム こすもす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は食事に関する一連の作業の中で、できる事を手伝っている。運営者や管理者が中心に、入居者の好み・病状・分量に合わせ、提供した物を完食できるように努力しており、時にはホームの農園の作物や近隣の頂き物が食卓を飾り、入居者・職員と一緒に(食事場所が2ヵ所あり相性を考え分けている)食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は1日おきに支援している。希望者には夕方も可能である。拒否者には声掛けや職員の工夫で入浴に繋げ清潔保持ができています。又、湯加減は手で触り確かめて実施している。風呂場に足浴機やハロゲンヒーターを置き必要に応じて使用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は活発であり、話し声や歌声が常に聞こえている。塗り絵・読書・計算・カラオケ・編み物・掃除等したいことをしており、統一していない。常に孤立しないように目配りしながら、活力に繋がる支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	デイサービスが併設しており、車椅子対応車により、ドライブを取り入れ、花見・紅葉・初市・文化祭等できるだけ全員で外出している。天気の良い日はホームの周辺を歩き、閉じこもらない生活を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在帰宅願望者は少なく、状態を診ながら支援している。近隣の畑の方や地域住人は入居者を理解し、見守っており、施錠はしていない。入居者が4時頃から戸締りを始め、職員や訪問者が外から入れないこともあるが、仕事の一環としての考えての行動であり、見守っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの消火・避難訓練を年1回と、自主訓練を実際に消火器を使って実施している。しかし、夜間を想定した訓練・地震災害の訓練・備蓄に関する準備に関する話し合いまで至っていない。		地域的に天災(地震・土石流・台風等)の想定や夜間を想定した訓練の実施が望まれる。又、災害に伴う備蓄状況(水・食料・携帯コンロ・懐中電気等)や非常持ち出し品(入居者にとって必要不可欠な品)を今一度検討し、非常時に備えられる事が期待される。

グループホーム こすもす

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示により分量を量り支援している。嚥下や咀嚼の身体状況に応じ、お粥・刻みや嗜好を重視して支援している。朝食が摂れない人には、エンシュア(総合栄養剤)を病院で処方して頂き使用している。水分量の把握はおおまかではあるが、夜間はペットボトルを置く等不足しないように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋で既存家屋を改修しており、かつての玄関をそのままの状態で使用する一方で、入居者には段差がない出入口があり、使い易く家庭的な雰囲気である。庭木や畑が窓越しに見え、自然に囲まれ開放的で居心地が良い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者の必要な品とホームが準備した物を置き、必要な人にはエアマットの無償提供や、健康面に配慮して、デロンギオイルヒーターを使用する等、居心地を重視した支援を実施しており、それぞれの生活が見受けられる。		